

三豊市中小企業振興基金事業を始めます

市内における中小企業の振興を図るため、新事業展開、新製品開発等に取り組む中小企業者等に対し、さまざまな補助メニューを用意してがんばる企業を応援します。

市の補助事業で特許出願中の
(株)さぬきテクノの竹粉砕機



補助メニュー

	補助対象事業	補助率	補助金額	
1	地域資源（地場産業系の技術、農林水産品、観光資源等）を活用した新事業展開または新製品開発に取り組む事業	補助対象経費の1/2以内	500万円以下	
2	産学官または産学連携により新事業展開または新製品開発に取り組む事業	補助対象経費の2/3以内		
3	農商工連携により新事業展開または新製品開発に取り組む事業			
4	異業種交流により新事業展開または新製品開発に取り組む事業			
5	先端技術シーズ実用化支援事業 (研究開発または研究開発要素のある試作プロジェクト等)	補助対象経費の1/2以内		
6	知的財産保護支援事業			30万円以下
7	経営革新支援事業（販路開拓事業等）			200万円以下
8	創業ベンチャー支援事業			
9	ビジネスマッチング支援事業（市が参加認定した事業に限る）	補助対象経費全額		
10	子育て応援協定締結事業	子育て応援協定締結事業に定める基準により交付		
11	中小企業振興協議会の運営事業	補助対象経費全額		
12	その他中小企業振興のため、市長が適当と認める事業	その都度決定する。		

子育て応援協定締結事業

あらかじめ三豊市と子育て応援協定を締結した事業者が、次の事業を実施した場合、子育て中の従業者の人数に応じて応援金を支給します。

- ・子育ておよび仕事が両立できる職場環境の整備
- ・子育て中の母親または父子家庭の父親の雇用促進
- ・独身男女の出会いの場づくり
- ・その他子育て支援の積極的な取り組み

応援金の額

子育て中の従業者数	応援金の額
5人未満	5,000円/月
5人以上10人未満	8,000円/月
10人以上30人未満	10,000円/月
30人以上	12,000円/月

対象 市内で継続的に営業している事業者

申請方法 政策課または市ホームページにある申請書に必要事項を記入して6月30日(水)午後5時までに政策課へお申し込みください。

補助金の交付決定

補助金審査委員会の結果により市長が決定

▶ 問い合わせ 政策課 73-3010

おめでとうございます

4月29日、春の褒章、春の叙勲、危険業務従事者叙勲の受章者の発表があり、三豊市からは次の皆さんが受章されました。(敬称略)

春の褒章

緑綬褒章

【社会奉仕活動功績】

山下 瑛子(詫間町)

春の叙勲

◆ 旭日双光章

【地方自治功労】

秋山 八美(高瀬町)

【社会教育功労】

植岡 澤江(仁尾町)

◆ 瑞宝双光章

【消防功労】大藤 春雄(山本町)

【運輸行政事務功労】

渡邊 武(詫間町)

◆ 瑞宝単光章

【消防功労】植野 隆男(山本町)

危険業務従事者叙勲

◆ 瑞宝双光章

【防衛功労】大江 壽昭(詫間町)

◆ 瑞宝単光章

【警察功労】矢野 武(高瀬町)

知事表彰

5月1日、憲法記念日の知事表彰受賞者の発表があり、三豊市からは次の皆さんが受賞されました。(敬称略)

【地方自治功労】

大西 良一(高瀬町)

関 博徳(三野町)

【教育文化功労】

家浦二頭獅子舞保存会(仁尾町)

【交通安全功労】

川崎 茂俊(財田町)

前川恵美子(三野町)

【青少年育成功労】

鈴木 計邑(高瀬町)

【食品衛生功労】

上戸 清(豊中町)

【環境衛生功労】

柳生 俊泰(高瀬町)

【畜産振興功労】

細川 光明(三野町)

【スポーツ功労】

織田 一八(豊中町)

法務大臣感謝状

4月23日、人権擁護委員を退任された方に法務大臣感謝状が贈られました。(敬称略)

眞鍋 欣之(三野町)



産学官連携事業

調印式

三原県友好都市提携

5月12日、産学官・共同研究に関する協定書の調印式が市役所で行われました。この事業は、他の市にはない香川高等専門学校・詫間キャンパスと作り上げた「官学連携」の成果を「産学官連携」に拡大し、地元中小企業と連携した産業振興に努め、地域の活性化を図っていくことを目的としています。

今回、プロポーザル方式により選定した(株)福本ボデーと香川高専、三豊市の三者でホイールインモーター型ハイブリッドカーの共同研究・開発を行います。

5月19日、中国陝西省三原県との友好都市提携調印式が市役所で行われました。協定書には三原県長の委任を受けた共産党三原県委員会書記の劉涛(リュウ・トウ)氏と横山市長がそれぞれ署名しました。

三原県は、平成17年7月に旧三野町と友好提携を結び、三豊市になってからも中学生派遣事業などを通して交流を深めてきました。この度、これまでの絆を再確認し、次世代につながる交流を深めていくために協定書を交わしました。